

NiiGATA

生涯学習にいがた

No.23
1998.10



高校生ボランティアスクールの活動風景(施設訪問での農耕作業体験)



車イス体験

主な内容

- P5 生涯学習の基地紹介
まなびピア新潟 '98
- P6 はい!学習相談室です

特集

- P2・3 子どもたちの「生きる力」を
育むための学習プログラム
- P4 新潟県社会教育施設情報化・
活性化推進事業(ニルス・プラン)

はい!!学習相談室です



ラ・ラ・ネット(生涯学習情報提供システム)を見ながら学習相談をおこないます。



観光情報誌、市町村広報誌、生涯学習関係計画書、報告書、資料など生涯学習関係の書物がそろえてあります。

<今まで、こんな相談がありました。>

市町村の職員から

公民館の職員で福島県の先進地を視察したい。学社融合か、その他地域づくりに関することで視察によいところはないだろうか。行政出前講座を企画したい。新潟県の市町村でそのような講座に取り組んでいるところを紹介してほしい。当町では「生涯学習だより」の発行を計画している。各市町村の生涯学習だよりを参考にしたいのでぜひ見せてほしい。当町では、学社融合を推進したいと思っている。学社融合の実践的な資料がほしい。学校へ人材を派遣するときの要綱や規則の例はないのか。

学校関係の職員から

P T Aの講演会講師をさがしている。「心の教育」という観点からお話してくださる方を紹介してほしい。当村では、全ての学校にインターネット端末を導入する。学校での規定を作りたいのだが他県の例などを紹介願いたい。学社融合の具体的な実践について知りたい。いきいきスクールステップアップ事業で中学1年生を連れて新潟市の歴史的な施設を見学にいきたい。適当な施設を紹介願いたい。新潟市及び新潟市の部活動外部指導者や長岡市の人材教育について知りたい。

= 編集後記 =

表紙は、高校生ボランティアスクールでの体験活動の様子です。体験活動を終えた後の高校生たちの充実した顔が印象的でした。今号の特集では、学社融合によって子どもたちの「生きる力」を育む学習プログラムの開発の例を取り上げました。報告書の一部は当センターのホームページで見ることができます。詳しい資料は、当センターの学習相談までお問い合わせください。

個人の方、団体の職員等から

介護福祉士の資格を通信教育で勉強して取得したい。どのような通信教育機関があるか知りたい。フラダンスを習いたい。教えてくれるところはないか。影絵の記念館に行きたいのだが、名前もよく分からない。調べる方法があったら、調べて教えてくれないか。生涯学習に先進的に取り組んでいる市町村を全国から調べてくれないか。車椅子で利用できる施設、温泉、ホテル等の宿泊施設等を紹介してほしい。県内にそのマップがあると聞いたが。

学習相談の御利用はこちら

新潟県立生涯学習推進センター
〒950-8602 新潟市女池2066番地

電話 025 - 284 - 6119
FAX 025 - 284 - 6019

生涯学習最前線「わが街は今」



妙高高原町

第三回を数える妙高高原夏の芸術学校を、今年も七月三十一日から八月三日までの四日間、赤倉温泉やいもり池などを会場に開催しました。

開催地赤倉温泉は、日本の近代美術界の祖岡倉天心先生がこよなく愛し、永眠された地でもあります。町では岡倉天心先生の想いを町づくりの切り口として、『妙高高原の自然と調和した芸術の里づくり』をコンセプトに掲げ、その一環としてこの芸術学校を平成八年度から開校してきております。

講師は岡倉天心先生の御縁で東京芸術大学の先生方にお

岡倉天心先生の想いが今よみがえる 妙高高原夏の芸術学校

願っております。

今年はこの学校に初心者からプロを目指す方まで、年齢も六歳から九十六歳までの百八十名が受講され、なかには三年連続の方も数多く見られました。

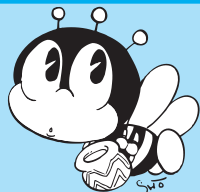
この芸術学校は、芸術を志す方にとっては、夏の恒例行事として定着しつつあります。また、講師と受講生との交流を深めようと、講師との懇話を設けておりますが、先生から絵についてのいろいろな御指導をいただき、有意義なひとときも過しております。受講生たちは講師の親切な指導のもと、自分の作品作りに没頭した四日間でした。



わ わ わ ひろげよう、まなびの話・和・輪

～第1回新潟県生涯学習フェスティバル

「まなびピア新潟 98in柏崎刈羽」にぎやかに開催!～



十月三十日から十一月一日の三日間、柏崎市・刈羽郡内を中心に、第一回新潟県生涯学習フェスティバル「まなびピア新潟98in 柏崎刈羽」を開催します。

対話、触れ合いの場を提供する「話」、交流や出会いの場を提供する「和」、ネットワーキングを目標とする「輪」を開催テーマに、柏崎市市民会館、柏崎市総合体育館をメイン会場にして、シンポジウム、記念講演、見本市、体験広場、学習発表会など様々な催し物を予定しています。

主な催し物は、次のとおりです。

午前十時から午後四時
十一月一日(日)

午前十時から午後三時
会場 柏崎市総合体育館

・生涯学習見本市
「豊かな生活への提言」をテーマに、企業、団体などが展示。

・生涯学習体験広場(マナビイステージ)

柏崎刈羽、県内の各団体が日ごろの学習成果を発表。
・生涯学習体験広場(マナビイ教室)

手すき和紙体験、スーパー竹とんぼづくり、さまざまなクラフトなど親子で楽しめる活動がいっぱい。

十月三十日(金)
午後一時三十分から
五時三十分まで

会場 柏崎市市民会館

・開会式
・パネルディスカッション
「明日の生涯学習社会を拓く」学校支援ボランティアの視点から」

・記念講演
「スポーツ心弾ませて」
講師 スポーティライター
増田明美さん

十月三十一日(土)

午前十時から午後四時
十一月一日(日)

午前十時から午後三時
会場 柏崎市総合体育館

・生涯学習見本市
「豊かな生活への提言」をテーマに、企業、団体などが展示。

・生涯学習体験広場(マナビイステージ)

柏崎刈羽、県内の各団体が日ごろの学習成果を発表。
・生涯学習体験広場(マナビイ教室)

手すき和紙体験、スーパー竹とんぼづくり、さまざまなクラフトなど親子で楽しめる活動がいっぱい。

高柳町、小国町、西山町、刈羽村でもサブ会場として、

自然体験活動、町生涯学習フェスティバル、竹とんぼフェスティバル、文化祭、芸能発表会など多彩な催し物が開催されます。

問合せ先
柏崎市教育委員会生涯学習課
0257(21)2270

新潟県教育庁生涯学習推進課
025(285)5511
内線 3891、3892

特集2 ニルス・プラン

ニルス・プランとは、情報の発信や交流を通して社会教育施設の活性化を図ろうと、新潟県が平成9年度から文部省の委嘱を受けて始めた事業「新潟県社会教育施設情報化・活性化推進事業」の愛称です。

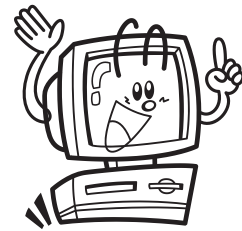
目的

インターネットを通じて社会教育施設や学校等における学習に活用できるシステムを開発します。具体的には県立生涯学習推進センターを中核に、社会教育施設が所有する学習資源や情報をマルチメディアデータベース化し、キーワードで各施設を横断検索できるようにします。加えて、既存の生涯学習情報提供システムの情報をインターネットでも検索できるようになり、前述のシステムと一体化を図ります。

このことで、生涯学習関連施設等の所有する学習資源や情報が一層県民に活用され、併せて、県民の足がそれら施設に向き、施設の活性化につながることを期待しています。

主な事業

学校が美術館
茶の間でラ・ラ・ネット



画像データベースの構築（試験運用中）	ラ・ラ・ネット情報のインターネット提供（試験運用中）
社会教育施設の所蔵する学習資料の映像とその解説文をコンピュータの中にマルチメディア・データベースとして組み込み、インターネットを通して、提供します。 例えば、県立近代美術館の千数百点の作品を見ることができます。	生涯学習提供システム「ラ・ラ・ネット」の情報のうち、学習機会、施設、団体・グループ、ふるさと散歩、ボランティア情報がインターネット上で利用できるようになりました。
事業参加施設・県内有数の美術館・博物館等のホームページ作成	テレビ会議システムを用いた遠隔学習の実施
本事業の参加施設がホームページで情報発信します。 新潟県博物館協議会に加盟する施設(北方文化博物館、長岡市立科学博物館など)のホームページ集をつくりまします。	テレビ会議システムを利用して、近代美術館・埋蔵文化財センター・文書館・自然科学館が遠隔講座を開催します。 加えて、公民館・学校などから施設の専門員にリアルタイムで学習の相談を行うことができます。

ニルス・プランのホームページは http://www.lalanet.gr.jp/	お問い合わせはこちらへ 事務局:新潟県立生涯学習推進センター内 TEL 025-284-6110 E-mail nils@mail.lalanet.gr.jp
--	---



第一回全国視聴覚教育連盟視聴覚教育功労者

田村達夫様 晴れの表彰

全国視聴覚教育連盟では、今年度より全国各地で視聴覚ライブラリー・センターを支えて地道な活動を続けてこられた方を表彰することになりました。全国22名のうち、新潟県からは、田村達夫様が栄えある功労者に推薦され、晴れの表彰を受けられました。

田村様は、十日町市他公民館主事や社会教育主事を歴任されました。学級・講座・町内映画会等で活躍され、地区ライブラリーの企画・運営委員として、その任を十分に果たされました。

学社融合プログラム(国語 書道 授業)

- 1 事業名 「一緒に学ぼう書道教室」
- 2 事業目標 中学校の書道教室において、一教員による一斉的な指導ではなく、地域の指導者を補助者として派遣することによって、生徒個人に対応した指導を行い、個々人の技能をより伸ばす。同時に、教員以外の指導補助者から直接指導を受けることによって、世代間交流を図り、その交流をとおして、生徒の「生きる力」を育む。
- 3 連携機関・施設 公民館・ 中学校・ 大学
- 4 対象児童生徒 中学校3年生(書道選択者)
- 5 事業展開

活動内容・形態	活動場所	中学校	公民館	大学
		事業におけるそれぞれの役割		
地域指導者の補助による中学校での書道授業(選択書道授業時間数の3割程度)	中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・事業全般における公民館との相互理解と打ち合わせ ・地域指導者受け入れ体制の整備 ・生徒の技能及び興味別による事前グループ分け 	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館主催の書道教室を企画、運営 ・大学と連携の上、書道の歴史等の学術的な要素も入れた講座内容を企画 ・講座修了者の中から中学校への指導補助希望者を募集 ・大学及び中学校と打ち合わせの上、指導補助者を対象とした事前研修会を企画、運営 ・複数の指導補助者の中学校への派遣 ・講座及び指導者派遣の経費負担 	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館書道講座の企画、運営への助言協力 ・書道講座への指導者、講師の派遣 ・中学校への指導補助者対象の研修会企画への助言、協力と講師の派遣
		事業によるそれぞれの効果		
		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒個人の技能、興味に応じた個別的な指導による授業の充実 ・教員以外の人々との触れ合いによる異年齢交流体験 	<ul style="list-style-type: none"> ・主催事業としての実績 ・公民館講座修了者の学習成果の活用 ・事業成果の社会への還元・世代間交流という現代的課題への取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館講座への指導者、講師の派遣による大学のPRと書道への興味の喚起 ・指導者養成を通じての青少年への書道教育実践
中学生と指導補助者も含んだ一般社会人との合同公民館書道教室(2回程度)	公民館	事業におけるそれぞれの役割		
		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒及び保護者への公民館移動書道教室の事前説明と周知 ・公民館への生徒の引率 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生及び一般合同の公民館講座の企画、運営 ・講座開催費の負担 ・講座修了指導補助者との打ち合わせ 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生及び一般合同の公民館講座の企画への助言、協力と指導者、講師の派遣
		事業によるそれぞれの効果		
		<ul style="list-style-type: none"> ・より技術的、専門的な学習体験 ・一般社会人との合同受講による異年齢交流体験 	<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢交流も含んだ主催講座としての実績 ・青少年の公民館利用の促進 ・公民館施設のPR 	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年への書道教育の実績 ・書道全般に対する興味の喚起

6 実践の成果 技術の習得だけでなく、中学校だけでは得られない学びの体験により、生きる力が育まれる。

7 今後の課題 大学の設備等も考え入れて、開催場所をさらに工夫する必要がある。また、公民館講座受講者の活用の仕方を再検討し、指導者としてだけでなく、共に学ぶ大人の姿から生き方を学ばせるといった視点を、もっと重視していく必要がある。

特集1 子どもたちの「生きる力」を育む ための学習プログラム

はじめに

中央教育審議会は、今後の教育の在り方として「ゆとり」の中で子どもたちに「生きる力」を育むことが大切としています。そのため、学校、家庭、地域社会の連携、協力によりバランスのとれた教育を推進することが重要です。

この「生きる力」は、様々な体験活動を通して身につくと考えられますが、学校教育だけでは育ちにくい現状にあります。

平成九年度、文部省の「社会教育指導充実強化事業」の委嘱を受け、子どもたちの「生きる力」を育むための学習プログラムの開発に取り組ましました。ここに、その研究のまとめを紹介します。

調査の概要

(1) ねらい

児童・生徒の「生きる力」を育むためには、児童・生徒の興味・関心に応じた多様な

教育や学習の機会を提供する必要がありますと考えました。

そのため、学校、家庭、地域が一体となって取り組むことが求められます。そこで、社会教育関連機関、大学等的高等教育機関及び学校現場の実態を把握して、児童・生徒の生活実態にあつた学習プログラムの開発が必要と考え、その資料を得ることを目標として、調査をしました。

(2) 調査対象

- ・新潟県内小・中学校児童・生徒2345名抽出(小五・中二)
- ・新潟県内全112市町村
- ・新潟県内全24大学
- ・新潟県内小・中学校10校抽出

研究の焦点

学校教育・社会教育関連機関・高等教育機関との「三者の連携による融合学習プログラム」の開発のため、次の二つに焦点をあてて研究しました。
(1) 学校が社会教育関連機関

や高等教育機関に何を望んでいるか。

(2) 社会教育関連機関や高等教育機関が学校に何ができるか。

その結果、(1)については、地域の教育力の活用

施設の活用
事業の実施

学習プログラムの作成
話し合いの場の必要

また、(2)については、
《社会教育関連機関》

地域の教育資源の導入
情報発信基地
仲立ち的役割

指導者の養成
学習機会の提供

積極的な施設の開放
《大 学》

学習機会の提供
積極的な施設の開放

人材の活用
教育力の活用

研究活動を通して
以上のようなことが調査から伺えました。

なぜ、三者による連携を考えたか

大学が保有する物的、人的資源を学校教育と社会教育に還元する機会を作ることによって、充実した幅広い学習が期待できると考えました。

また、連携事業を実施するには、「仲立ち役」が必要です。

今回の調査から、市町村教育委員会がその役をやるのが適当と考えました。このように「生きる力」を育むためには、学校内の教育だけでなく、行政が窓口になって、大学や専門学校等の高等教育機関と「学校」そして「行政」の三者が連携して学習プログラムを開発することによって、より充実した学習が展開されると考えました。

その学習プログラムの一例を次ページ 資料1 に紹介します。

成果と課題

《成果》

学校行事や地域行事を開放することにより、「地域の子」という意識が生まれ、地域が一体となって育成する組織が作れる。

大学を開放することによ

り、高度の学習が期待できると同時に住民が大学を身近に感じる。

住民が子どもと交流することで、学校理解、子ども理解の場となる。

地域指導者や大学教授等の活用により、小・中学校の授業が活性化される。

《課題》

社会教育機関で指導者の育成が必要
会議が夜になり、関係の職員に負担がかかる。

何種類かの会議が必要になり、連絡調整が大変

学校だけでなく、地域にも学社融合の理解や啓発が必要

わがこと

今日の社会は、情報化、国際化、高齢化の社会といわれ、価値観の多様化が進み、さまざまな変化をもたらしています。教育や学習の場は学校だけに限らず、社会全体に必要です。そのためには、学社融合により、より充実した学習が重要になってきます。

